

## ギニア国中部・高地ギニア持続的農村開発計画調査

(調査期間：2008年7月～2011年5月、担当業務：農業生産・栽培)

### 調査背景

ギニアはアフリカの西端部で大西洋に面し、国土面積は24.6万k㎡、人口約1,059万人(2011年IMF)である。降水量、気温、地形は変化に富んでおり、国土は海岸・中部・高地・森林ギニアの4つの自然生態系に区分される。

対象地域は、中部ギニア及び高地ギニアである。中部ギニアは国土面積の23%を占める起伏の多い山岳地帯(1,500m級)で、年平均気温は20～27度、年間降雨量は1,500mm以上で雨期(5月～10月)に集中する。農業は傾斜地の小面積で行われ、雨期のコメ、フォニオ等の穀物に加えて、冷涼な気候を活かして乾期にはサツマイモ、トマト、ジャガイモ等の野菜が生産されているが、未整備農地がほとんどで、生産性は非常に低い。他方、高地ギニアは、国土面積の42%を占め、ニジュール川沿いの肥沃で広大な氾濫原を活かし、コメ栽培を中心に粗放的な農業が行われている。しかし、雨期の河川の氾濫と乾期の水不足により、生産は不安定且つ低い水準に留まっている。灌漑施設、農地整備はほとんど行われておらず、まずは自給を目指して雨期のコメを中心とした穀物生産を安定させることが求められている。

このような背景の中、ギニア国政府は、中部・高地ギニアにおける持続的な農業開発に関する開発調査の実施を要請した。これを受けて我が国は、2008年7月から本調査を開始した。

### 調査概要

本調査では、(1) 中部・高地ギニアにおいて、住民の生計向上のための① 持続的営農モデルの面的拡大戦略からなるマスタープラン(M/P)と、② M/Pに基づいて優先的に開発を進めるべき地域における事業実施計画であるアクションプラン(A/P)を策定する。(2) 本調査の実施を通じて、カウンターパート機関など行政官及び住民組織(NGOを含む)の人的、組織的能力を強化することを目的に実施された。

### 担当事項

- 栽培環境・現況栽培事情・地域資源利用に関する情報収集
- 行政官/各種ワークショップ、セミナー開催、パンフレット作成等広報
- 野菜栽培、ネリカ栽培に関するパイロットプロジェクトの設計・実施監理・評価、及び技術移転の実施
- 農業開発関連におけるマスタープラン、アクションプランの検討・策定



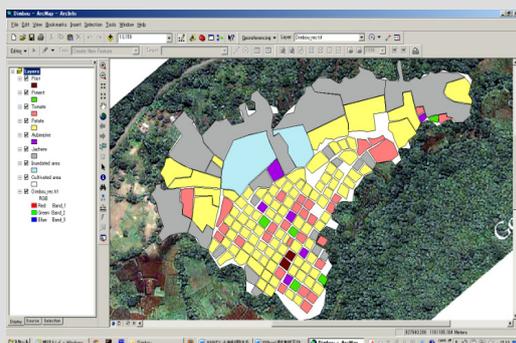
普及員への稲作指導(水苗代での播種)



普及員への稲作指導(収量調査方法)



普及員による農民指導(ナス・トマトの育苗床作り)



GIS解析(現況土地利用)